

『般若心経』から見る仏教の世界

高野山大学兼任講師 那須 真裕美

1. 『般若心経』を概観する

仏説摩訶般若波羅蜜多心経  
 親自在菩薩 行深般若波羅蜜多時  
 照見五蘊皆空 度一切苦厄 舍利子  
 色不異空 空不異色 色即是空 空即是色  
 受想行識 亦復如是 舍利子 是諸法空相 不生不滅  
 不垢不淨 不增不減 是故空中無色 無受想行識  
 無眼耳鼻舌身意 無色声香味触法 無眼界  
 乃至無意識界 無無明 亦無無明尽 乃至無老死  
 亦無老死尽 無苦集滅道 無智亦無得 以無所得故  
 菩提薩埵 依般若波羅蜜多故 心無罣礙 無罣礙故  
 無有恐怖 遠離一切顛倒夢想 究竟涅槃 三世諸仏  
 依般若波羅蜜多故 得阿耨多羅三藐三菩提  
 故知般若波羅蜜多 是大神咒 是大明咒 是無上咒  
 是無等等咒 能除一切苦 真實不虛  
 故説般若波羅蜜多咒 即説咒曰 羯諦羯諦  
 波羅羯諦 波羅僧羯諦 菩提薩埵訶 般若心経



〔図解 般若心経入門〕 ナツメ社、2012年、p.15

◆ 日本仏教の主な宗派

成立	宗派名	宗祖	本山・主要寺院	所依經典	傾向
飛鳥	法相宗	道昭	興福寺、薬師寺	『解深密経』など	学問仏教の隆盛
奈良	華嚴宗	良弁	東大寺	『華嚴経』	
	律宗	鑑真	唐招提寺	『梵網経』など	密教の導入
平安	天台宗	最澄	延暦寺	『法華経』	
	真言宗	空海	東寺、金剛峯寺ほか	『大日経』『金剛頂経』	
	融通念仏宗	良忍	大念仏寺	『法華経』『華嚴経』	民衆救済のための新仏教の登場
鎌倉	浄土宗	法然	知恩院	浄土三部経	
	浄土真宗	親鸞	東本願寺、西本願寺ほか	浄土三部経	
	臨済宗	栄西	建長寺、妙心寺ほか	—	
	曹洞宗	道元	永平寺、總持寺	—	
	日蓮宗	日蓮	久遠寺	『法華経』	
	時宗	一遍	清浄光寺	浄土三部経	
江戸	黄檗宗	隠元	萬福寺	—	仏教の国際化

〔図解日本の仏教と宗派〕 宝島社、2013年 掲載表などに基づき構成

## ◆ 辞書から探る『般若心経』

- 『大辞泉』…… 国語辞典  
膨大な般若経の内容を簡潔に表した経典。1巻。漢訳は鳩摩羅什訳など7種ある。日本では「色即是空、空即是色」の句のある玄奘訳が読経用に広く用いられる。
- 『平凡社マイペディア』…… 百科事典  
大乗仏典の一つ。玄奘訳では262字。最も短い経典であるが、諸法皆空の般若経の要点を最もよく表現している。古くから日本の在家信者にも読誦された。
- 『山川 日本史小辞典 改訂新版』…… 歴史辞典  
摩訶般若波羅蜜多心経の略。サンスクリット原典と数種の漢訳が現存するが、唐の玄奘訳のものが有名。般若経典の空の教えの真髓を説いたものとされる。大乗の教えの中心命題を簡潔に示すため古くから各宗で尊重され、多数の注釈書が作られた。僧俗を問わず、盛んに書写もなされている。
- 『岩波仏教辞典 第三版』…… 仏教辞典  
漢訳は玄奘訳が最も広く流布するが、鳩摩羅什訳を含んで合計7訳があり、また小本と大本との2種がある。玄奘訳は小本に相当する。経名の中の「心」は心臓をいい、核心・心髓の意。すなわち、般若経典類に説かれる内容を空という核心に凝縮し（たとえば色即是空・空即是色）、また末尾に真言を置き、悟りの彼岸への到達をたたえる。

## ◆ カタチから見る『般若心経』

### ◇ 経典の基本形

- (1) 三部構成でストーリーが進行する（三分）

序分	序説、舞台設定を説明する導入部に相当。
正宗分	経典の教えを説く部分、本文に相当。
流通分	経典の流布を勧告する文言。

- (2) 書き出しは定型句（六事成就・五成就）

如是	〔このように〕
我聞	〔私は聞いた〕
一時	〔ある時〕
仏	〔仏は〕
在(某処)	〔(某処に) いらっしゃった〕
与(某衆)俱	〔(某たち) とともに〕

- (3) 代表者との質疑応答スタイル（対告衆）

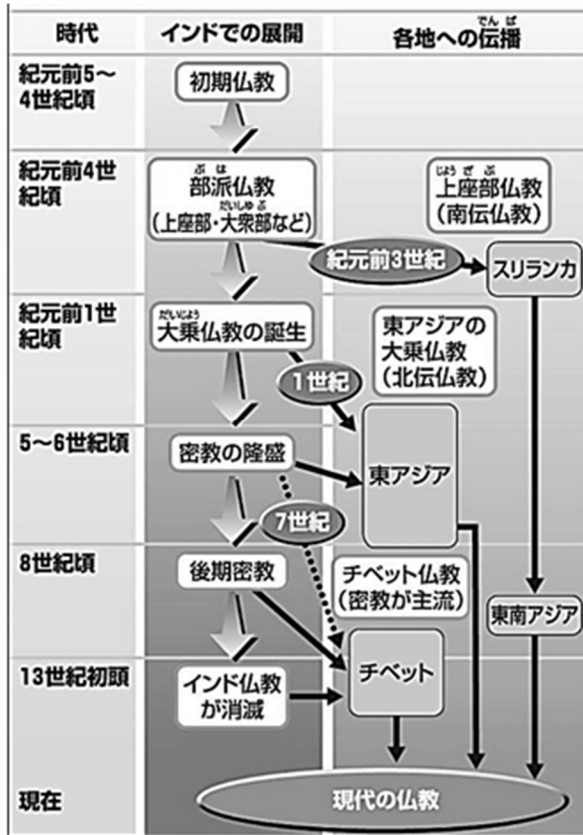
対告衆とは、仏が説法する時の聴衆の代表者のこと。釈迦は説法する時、聴衆の中からとくに選んで、その人物名を呼びかけた。

☞ 『般若心経』小本では、(1)(2)が省略されている

『般若心経』から見る仏教の世界

2. 経典の歴史をひもとく

◆ 仏教のふるさと インドでの展開



・ インド仏教では、中国・日本仏教に見られる「宗派」は形成されなかった。

・ 4つの発展形態とその特徴

**初期仏教** 釈迦入滅直後に教え（経）と教団のルール（律）を編纂。

**部派仏教** 教団が保守派（上座部）と進歩派（大衆部）に分裂。

**大乗仏教** 多種多様なほとけを生み出すなど「新たな仏教運動」を展開。

**密教** 儀礼と象徴性を特徴とし、実践修行を重んじる。

・ インド大乗仏教が、東アジア仏教の源となった。

[http://todaibussei.or.jp/izanai/asahi\\_buddhism/05.html](http://todaibussei.or.jp/izanai/asahi_buddhism/05.html)\*

◆ 多種多様な大乗仏教経典

第 1 期：初期大乗経典（紀元前後～3 世紀頃）

- 般若経系 『小品般若経』、『大品般若経』など
- 法華経系 『妙法蓮華経』など
- 華嚴経系 『大方広仏華嚴経』など
- 浄土教系 『無量寿経』『観無量寿経』『阿弥陀経』など
- 三昧系 『般舟三昧経』、『首楞嚴三昧経』など

ほか、在家者が重要人物として登場する『維摩経』、『郁伽長者経』などもある。

第 2 期：中期大乗経典（4 世紀～6 世紀初め）

- 『解深密経』 唯識思想を説く
- 『勝鬘経』、『如来蔵経』、『涅槃経』、『入楞伽経』など 如来蔵思想を説く
- 『金光明経』、『薬師経』 密教の要素を含む

第 3 期：後期大乗経典（8 世紀～13 世紀） ➔ 密教経典

◆ 『般若経』グループとは

- ・ “約千年にわたって増広・縮小・派生を繰り返した膨大な文献群”

基本的般若経 (どんだん長大に)	しょうぼん だいほん 小品系般若経、大品系般若経、『十万頌般若』
発展的般若経 (テーマが絞られた短縮形)	『金剛般若経』、『般若心経』、『善勇猛般若経』、『文殊般若経』、 『勝天王般若経』、『濡首般若経』、『仁王般若経』、『開覚自性般若経』
密教的般若経 (密教性を帯びる)	『般若理趣経』、『帝釈般若経』、『小字般若経』、『日蔵般若経』、 『月蔵般若経』、『一字般若経』『百八名般若経』など
『大般若波羅蜜多経』	玄奘による漢訳、十六会、600巻

(小峰彌彦・勝崎裕彦・渡辺章悟編『般若経大全』、春秋社、2015年参照)

- ・ 般若経とは、大乘仏教の最初期の経典群の総称。これを名のる経典は数多く漢訳されて、『大正新脩大蔵経』に収められているものだけでも42経もある。大乘仏教の第一声を告げる経として、最も重要な経であるが、以後次々と作られ、次第に増広されて、最大のものは玄奘の訳した『大般若波羅蜜多経』600巻に及ぶ。これはあらゆる経典中最大のものである。

一切の実体と実体的思想との否定をうたう「空」の思想をよりどころとする般若の智慧を説き、六波羅蜜の実践を推進する。なお、密教のよりどころとなった『理趣(般若)経』はかなり後代のものであり、また『金剛(般若)経』は禅関係で流布し、『般若心経』は浄土教と日蓮宗を除く仏教全般に広く愛読され、書写も盛んであり、現在最もよく知られる。  
(『日本大百科全書』)

### 3. 『般若心経』のキーワード

【参考】現代語訳

観自在菩薩が、深い①般若波羅蜜多を行じているとき、五蘊は皆、空とされると照見して、一切の苦難と災厄からお救いになりました。「舍利子よ、②色は空と異なりません。空は色と異なりません。色はすなわち空なのです。空はすなわち色なのです。さらにまた③受・想・行・識も同様です。舍利子よ、このすべての法は空という様相を呈しており、不生にして不滅、不垢にして不浄、不増にして不減なのです。そのため、空のなかでは色もなく、受・想・行・識もなく、眼・耳・鼻・舌・身・意もなく、色・声・香・味・触・法もなく、眼界から意識界までもなく、無明もなく、また無明の尽きることもなく、そこから老死までもなく、また老死の尽きることもなく、苦・集・滅・道もなく、知識もなく、また獲得もないのです。なぜなら、得られないことがないからです。菩薩は般若波羅蜜多に依っているのです、心に妨げるものがないのです。妨げるものがないから、恐怖もあることなく、一切の誤った考えや

## 『般若心経』から見る仏教の世界

夢想から遠く離れて、④涅槃を最後まで究めています。三世の諸仏も般若波羅蜜多に依っているので、⑤阿耨多羅三藐三菩提を得られています。だから、知るべきです。般若波羅蜜多は大神呪であり、大明呪であり、無上呪であり、無等等呪であり、よく一切の苦を除去するのです。真実で虚妄ではないのです。なので、次のように般若波羅蜜多の呪が説かれます。すなわち、呪を説いていうには

掲諦掲諦波羅掲諦波羅僧掲諦菩提薩婆訶

(米澤嘉康『全注・全訳 般若心経事典』鈴木出版、2009 年参照)

[仏教用語の意味]

- |             |   |
|-------------|---|
| ① 般若波羅蜜多    | 般若とは、すべての事柄やものの道理を見抜くことのできる智慧で、波羅蜜多とあわせて「智慧の完成」を意味する。 |
| ② 色         | いろ・かたちを持つ物質、物体のこと。                                    |
| ③ 受・想・行・識   | 心の働き。「色」とあわせて、五蘊と呼ぶ。                                  |
| ④ 涅槃        | 煩悩が鎮まった状態。悟りの境地。                                      |
| ⑤ 阿耨多羅三藐三菩提 | 無上の真実なる完全な悟り。   |

## ◆ キーワード① 空

- ・ 語としては、もともと「からっぽ」「欠如」「ふくれあがって内部が空洞な状態」を意味する。
- ・ 『般若経』では、悟りや涅槃をも含むあらゆるものごとに対する無執着のあり方を「空」と呼んだ。

## ◆ キーワード② 呪

- ・ 陀羅尼、真言とほぼ同義に用いられる語
- ・ 「呪」は本来、修行者が心の散乱を防いで集中し、教えを記憶し保持するために用いたもので、すでに大乘仏教の時代に盛行していた。密教の時代になると、さらに言葉に効力があると期待する性格を強めた。
- ・ 呪・陀羅尼・真言は、意味を翻訳せず、原語の発音を活かして使用する。

## ◆ 『般若心経』は、“ありがたい”お経?

- ・ 書写の功德（写経）
- ・ 身を守る働きへの期待（お守り）